

評価時の注意

1 運動発達

典型的な脳性麻痺は1才～1才半までに見い出されていることが殆んど。

不器用児：微細脳機能障害、中枢性協調障害、感覚統合障害、などといわれるものが含まれる。将来的には運動能力障害、学習障害の可能性を含む。

歩容の異常の出現等、退行性、変性性疾患の初発症状に注意。

2 日常生活身辺自立

地域格差のあることに留意

身辺自立、そのしつけ方法について 保護者は保育士との話し合いを受け入れやすい。それは、親子関係、家庭内の子育ての様子をうかがい知るチャンスとなる。

3 言語発達

理解言語から始まり、ジェスチャー(指差しなど)での表出、単語による一語文とすすんでいく。

この障害は知的障害だけでなく他の障害の部分症状でもある。

遅れだけでなく、獲得したことばの消失や、偏りにも注意必要。発音の問題は4才まで経過観察でも可。

4 認知発達

感覚や運動を通じて入力された情報を捉え、判断する力。

知的障害では遅れがち。広汎性発達障害では言語よりも獲得しやすい認知もみられる。

5 対人反応、社会性の発達

広汎性発達障害や行動障害の主症状でもあるが、家庭の子育てする力が弱い場合、被虐待の傾向や、親子関係のまずさがある場合でもみられることに留意。

6 行動発達

低年齢では多動として現れたり、言葉の遅れを呈することが多く、次第に集団への不適応の形で見えてくる。

評価方法

各項目の通過率は65%から100%、平均90%です。不通過項目が半年後に通過すれば凡そ良いとして下さい。この成育記録表は疾病及び発達の診断に用いられるものではありませんが、前・後半不通過の場合に問題が隠れていることがあります。又、発達の意義の表にみられる特徴がそろっていれば、専門家に紹介して下さい。